

外来種？

外来のタンポポの侵襲状況などを調べる民間の「タンポポ調査・西日本2010」(実行委員会主催)が、西

同実行委によると、

環境分かる

タンポポ分布図

日本の19府県で実施されている。大規模なタンポポ調査は異例。花や種を郵送すれば誰でも参加でき、昨年の予

から環境の変化などを分析したい考えだ。実行委は、教育現場をはじめ幅広く一般参加を呼び掛けている。

も生じている。宅地開発などで地面が荒れた場所は、在来種が育ちにくく、外来種が繁殖

タンポポ調査は自然を考える材料として各地で行われているが、75年にスタートした関西は先がけ。社団法人「大阪自然環境保全協会(大阪市北区)が事務局となり、大学や自然保護団体、博物館などが協力し、5年おきに実施している。



西日本広域調査採取して参加を

これまでの調査は近畿中心だったが、今回は中四国と福岡、佐賀の九州の一部が初参加。その結果、愛媛県大洲市周辺で東海地方中心に広がる「トウカイタンポポ」と似た新種とみられるタンポポの発見。実行委提供の写真を「オオスタンポポ」と名付け学会発表した。実行委事務局の木村進・大阪府立泉北高校

【曾根田和久】

全協会(06・6242・8720)。

教諭(56)は「身近な草花だが、詳細な分布データは少ない。新種を発見できる面白さもある」と魅力を語る。今年の調査は5月31日まで。採取日▽採取地点▽採取者の連絡先などを